

指 導 係

1 指導関係事業

(1) 学校訪問

指導主事が随時訪問し、校長をはじめ教職員と協議懇談することにより、学校の抱える問題を解明し、指導・助言をした。また、要請により研究会等に出席し、指導・助言を行った。

(2) 研修会

令和2年度は、次の研修会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

ア	校長研修会	1回
イ	副校長研修会	1回
ウ	主幹教諭任用時研修会	1回
エ	主幹教諭研修会	1回
オ	主任教諭任用時研修会	1回
カ	情報教育研修会	2回
キ	福生市教員悉皆研修会	1回
ク	特別支援学級担任研修会	3回
ケ	人権教育研修会	2回
コ	教育課題研修会	2回
サ	教育研究会研修会（24部会）	17回
シ	不登校対応研修会	1回
ス	中堅教諭等資質向上研修会	10回
セ	初任者研修会	11回
ソ	2年次教諭研修会	3回
タ	3年次教諭研修会	2回
チ	4年次教諭授業観察（研修会）	1回
ツ	環境教育研修会	4回
テ	服務事故防止研修会	2回
ト	小学校外国語活動研修会	2回
ナ	中学校英語科指導研修会	2回
ニ	食育研修会	1回
ヌ	読書活動研修会	1回
ネ	特別支援教育コーディネーター研修会	2回
ノ	日本語学級担当教員研修会	2回
ハ	ICT教育推進リーダー研修会	2回

(3) オーケストラ鑑賞教室

市立小・中学校児童・生徒を対象としたオーケストラ鑑賞教室を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

(4) 教育研究奨励、教育課題等研究委託

教育研究を奨励するとともに教育研究を委託し、教職員の使命の自覚を促すとともに、資質の向上を図った。

ア 教育研究奨励校 2校

学 校	研 究 主 題
三小（2年次）	「粘り強く学びに向かう児童の育成」～プログラミング教育の特徴を生かして～
四小（1年次）	確かな学力を身に付け、数学的に考えることができる児童の育成～数学的活動を通して～

イ 教育課題等研究校 8校

学 校	研 究 主 題
一 小	児童が積極的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする授業づくり
二 小	自ら学び考え、表現できる児童の育成～総合的な学習の時間を通して～
五 小	いのちのつながりを視点に生活を見つめ直す児童の育成～カリキュラム・マネジメントによる五小ESDカレンダー作成を通して～
六 小	学びに向かう力、人間性を育む国語科の指導の在り方を考える～国語の説明的な文章を読み解く学習を通して～
七 小	「自分の考えをもち、考えを広げ深める子ども」～学びの個別最適化と協働化を通して、教科等の本質的な学びを実現する～
一 中	指導と評価の一体化を目指した授業改善～グループ・ペアワークの活用を通して～
二 中	新学習指導要領に対応した学習指導の工夫と評価～主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価～
三 中	「学びに向かう力」の育成

ウ 教育課題等研究（団体）

団 体	研 究 主 題
校 長 会	主体的に学び、確かな学力を身に付けさせた児童・生徒の育成 ～見方・考え方を働かせた学びの実践を通して～
副校長会	「働き方改革」を推進するための副校長の役割

(5) 特別支援教育の推進

特別支援学級の児童・生徒の安全管理及び学習指導等の充実を図るために指導補助員を配置するほか、教員向けの特別支援教育研修会等を開催し、教員の特別支援教育に関する理解を深め、指導力の向上を図った。

(6) 各種指導補助員等配置事業

小・中学校に各種指導補助員等を配置して、児童・生徒の指導補助等を行った。

事 業 名	人 数	配置時間
日本語適応支援員（技能指導講師）	18	830
学習指導市民講師	30	30
特別支援学級等指導補助員	23	7,943
部活動外部指導員	33	864
スクールアシスタントティーチャー	71	19,947

(7) 英語教育指導助手事業

福生市英語教育推進計画に基づき、中学校全校に外国人英語教育指導助手（ALT）を配置し、中学校英語科の授業における補助を行った。また、各小学校にも随時ALTが巡回し、小学校第

5・6学年の英語科の授業及び小学校の第1学年から第4学年についても、外国語活動等における補助を行った。

指導日数：1,022日

(8) 理数教育推進事業

小学校第5・6学年、中学校全学年に理科支援員を配置し、理科授業の実験、授業等の補助を行った。

人員：11名

活動時間：687時間

(9) 学校と家庭の連携推進事業

いじめ、不登校、暴力行為など生活指導上の課題に対応するため、小・中学校全校に「家庭と子どもの支援員」及び「スーパーバイザー」を配置した。

ア 家庭と子どもの支援員

人員：20名

活動時間：2,334時間

イ スーパーバイザー

人員：3名

活動時間：9時間

(10) 英語教育推進事業

「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」の4技能を測定できる英語検定を中学校第3学年全生徒が公費で受験し、生徒の英語力向上と教員の指導力向上を図った。

(11) 福生市学力・学習状況調査（学力診断テスト委託）

一人一人の児童・生徒の学力を継続的に測るため、小学校第2学年から中学校第3学年の児童・生徒を対象とした学力・学習状況調査を実施した。

(12) 不登校特例校分教室開設

中学校における不登校生徒への支援の在り方として、学校復帰のみを目指すのではなく、社会的自立に向けた支援機能を備えた施設として、福生第一中学校不登校特例校分教室を設置した。

(13) GIGAスクール構想

多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させる「GIGAスクール構想」実現のため、小・中学校児童生徒全員にタブレット端末を一人一台配備し、ICT環境の充実を図った。

(14) オリンピック・パラリンピック等教育推進事業

小・中学校全校が、東京都教育委員会の指定を受け、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際的なスポーツ大会等が国際親善や世界平和に果たす役割を正しく理解し、世界の国々の文化や歴史を学び、交流することを通して国際理解を深め、スポーツを通して心身の調和的な発達を遂げ、進んで平和な社会の実現に貢献することができる児童・生徒の育成に向けて、研究に取り組んだ。

各小・中学校では、指導講師等の招へい等を行った。

(15) 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校事業

福生第五小学校が東京都教育委員会から「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」として指定を受け、持続可能な社会づくりに向け、自然環境や地域・地球規模等の諸課題について児童一人一人が自らの課題として考え、解決していくための能力や態度の育成を図った。

(16) 就学前教育と小学校教育の一層の充実に関する研究指定地区事業

就学前教育と小学校教育の一層の充実を図ることを目的として、「学びに向かう力、人間性等」(社会情動的スキル)の涵養に関する内容について慶應義塾大学に研究を委託し、市内保育園・幼稚園において調査検証を行った。

(17) 特別支援学級の専門性向上事業

福生第一中学校が東京都教育委員会から「特別支援学級の専門性向上事業」の支援対象校として指定を受け、東京都や羽村特別支援学校より助言・指導を受けながら授業研究を行ったことで、特別支援学級の教員の専門性が高められた。